

技術カタログの位置づけ

1. 背景となる問題意識

規制所管省庁等については、規制の見直しを検討するにあたり、どのような企業がどのような技術を保有しているかわからない（どのような企業に問合せをすればよいかもわからない）。

技術保有機関等については、規制の見直しに用いることができるような技術を保有していても、それをアピールする場がない。

2. 技術カタログの目的

規制の見直しに用いられる技術について、共通の技術カタログ掲載項目を設定し、**共通の物差しで製品・サービス等の特性を比較検討できるようにすることで、規制所管省庁等が規制の見直しの際に必要な技術の選定や選択を円滑に行うことができるようにする。**

3. 技術カタログの基本的な位置付け

技術利用者の判断をサポートするための情報を提供する仕組みを想定しており、**国が個別技術を証明・認証等を行うことは想定していない。**

そのため、技術カタログに掲載されている技術の利用に関しては、**技術利用者が責任を持つものとし、技術カタログに掲載されている技術の導入・利用を検討する場合には、セキュリティ等の安全性や投資効果等を十分に考慮の上、技術カタログに掲載された企業に技術の詳細等を確認するものとする。**

応募フォームにおける設問の趣旨

本公募に関する応募フォーム各セクションの設問趣旨を以下に示します。

各セクションにおける設問の趣旨

セクション名	趣旨
法人情報	✓ 製品・サービスの情報提供元となる法人情報についての情報収集を行います。
製品・サービス情報	✓ 製品・サービスについての概要情報を収集します。
製品・サービスの製造業者情報	✓ 製品・サービスの製造業者についての情報収集を行います。
必須機能	✓ 本公募にて必須とした機能についての情報収集を行います。 ※必須機能の詳細については次頁を参照してください。
サイバーセキュリティ	✓ 製品・サービスや提供法人のサイバーセキュリティ対策状況について情報収集を行います。 ✓ 技術カタログへ掲載する製品・サービスについてサイバーセキュリティの観点で、技術を活用しようとする規制所管省庁等に対してセーフガード（セキュリティ対策）に関する情報提供を行うことを目的とします。
製品・サービスの導入実績	✓ 製品・サービスの導入実績に係る情報収集を行います。
その他製品・サービス情報	✓ 製品・サービスに係る費用情報やアピールポイント等の、機能やセキュリティ以外の補足的な情報収集を行います。
事故発生時におけるユーザーの保護・救済	✓ 製品・サービスの利用者と契約上の問題や損害が生じた場合の、利用者の保護・救済に関する情報の収集します。
問い合わせ先情報	✓ 技術カタログの閲覧者及び事務局等が製品・サービスについての問い合わせを行う際の連絡先の情報収集を行います。
その他	✓ 著作権の取り扱い、技術カタログの利用規約、募集フォームへの回答内容についての確認または同意のセクションとなります。

目視等による施工・経年劣化・安全措置対策状況等確認の デジタル化後の業務と求められる機能

本公募で募集する技術

建築物・土木構造物や設備・製品等の設計・施工状況や経年劣化状況等の確認における情報取得や分析・判断を可能とする、目視等による施工・経年劣化・安全措置対策状況等確認のデジタル化を実現する製品・サービス

デジタル化後の業務と求められる機能

凡例： 本公募で募集する機能

プロセス	業務	技術	求められる機能
現場での準備	必要に応じ確認対象の付近に携帯・設置・自律移動	-	-
情報取得	遠隔あるいは実地にて確認対象に関する情報を取得	情報取得	情報取得機能
分析・判断	取得した情報を分析し、異常等の有無を判断	分析・判断	分析・判断機能
記録・保存	確認記録等を保存	保存	保存機能

必須機能1

必須機能2

課題		課題解決に必要な要件のイメージ
概要	規制所管省庁(現場)の声	
情報取得の遠隔化・省人化	<ul style="list-style-type: none"> 定点カメラによる確認では可視範囲が限られるため、対象の状態を確認できない恐れがある 	<ul style="list-style-type: none"> 機器を遠隔操作し、画角外に存在する確認対象を追跡し確認することができる、現場の担当者が移動を伴いながら取得したデータを遠隔地へ伝送することが可能、等
	<ul style="list-style-type: none"> 暗所等の光が届かない環境でも対象の状態を確認できる必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 暗所でも対象の状況を確認することができる、等(技術例：赤外線カメラ、等)
	<ul style="list-style-type: none"> 電源が限られた環境で確認を実施する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 長時間稼働可能なバッテリーを搭載しており、一定期間給電なく稼働することが可能、太陽光充電が可能、等
	<ul style="list-style-type: none"> 目視が困難な閉所や高所での確認を実施する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 目視が困難な環境下での情報取得が可能、等(技術例：小型カメラ、ドローン、ファイバースコープ、等)
	<ul style="list-style-type: none"> 構造物内部等の設備点検をする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 構造物内部の劣化状況等を確認することができる、等(技術例：超音波探傷、打音検査、腐食減肉検査、放射線透過試験、等)
分析・判断の自動化	<ul style="list-style-type: none"> 特定の設備の点検においては、地下に埋設されているため湿気がこもりやすい、化学物質が発生する、等の理由から、特殊な環境下での情報取得が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 防水性能を有している、硫化水素等の化学物質への耐用性能を有している、耐熱性能を有している、防爆性能を有している、等
	<ul style="list-style-type: none"> 土木構造物や設備等の劣化状況等について、過去時点からの差分を判断することで点検を効率化する必要がある 設備の運転状況の監視や定期点検を実施し、異常の有無を判断する必要がある 取得する映像データの容量が大きく、データの選別やトリミング等の作業負荷が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> 点群データから構造物等の3次元モデルを作成し、取得した画像データとAIにより比較分析させることで、劣化状況を高精度で診断することができる、等 設備の運転データの変化量や傾向をAIにより分析することで、設備の異常や異常の予兆を検知することができる、等 エッジ処理技術等により情報取得と同時に破損箇所等を検知し、該当するデータを選別することができる、等